

取材のお願い

響きあうアジア 2019 「『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサート」初公演 舞台出演者決定のお知らせ ～インドネシアから多数の才気あふれるアーティストが来日～

国際交流基金アジアセンターは、2019年4月5日付けのプレスリリースで発表した通り、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典「響きあうアジア 2019」の一環として、2019年7月2日（火）に「『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサート」を実施します。

このたび、既に本公演への舞台出演が決定していた「水曜日のカンパネラ」コムアイ氏に加え、インドネシアから才能豊かな俳優、ボーカル、楽器奏者らが多数来日し、出演することが決定しましたのでお知らせいたします。出演者の詳細については、後頁をご覧ください。

公演では、映画『サタンジャワ』の出演者ルルク・アリ・プラセティオ氏、ヘル・ブルワント氏、ドロテア・クイン氏の3名が、サイレント映像の中から抜け出したかのように、その声と舞踊を披露します。詩人であり舞台や映画でも活躍する国際的アーティストであるグナワン・マルヤント氏は、詩やマントラを舞台上で自在に操ります。ほかにもインドネシア伝統楽器の奏者など、一流アーティストが来日予定です。

また、音楽・音響を手がけるサウンドデザイナー森永泰弘氏が、今回のために4月にインドネシアへ渡航し、リサーチとフィールドレコーディングを実施しました。コムアイ氏も加わり、国や文化を超え、インドネシアの音楽家とのセッションが行われました。この様子についてもあわせてご報告しますので、ご参照ください。



記

■取材可能日程

監督 ガリン・ヌグロホ 2019年7月1日（月）～7月4日（木）
アーティスト 2019年6月24日（月）～7月2日（火）

※個別取材をご希望の際は日程調整いたしますので、広報担当までご連絡ください。

■来日アーティストプロフィール

ルルク・アリ・プラセティオ Luluk Ari Prasetyo

(歌唱・舞踊/映画：サタン役)

1982年生まれ。ジャワ舞踊家、コンテンポラリーダンサー・振付家。インドネシア国立芸術大学スラカルタでジャワ宮廷舞踊を研究。エコ・スプリヤント、サルドノ・W・クスモ、シェン・ヘー・ハー、ファジャール・サトリアディ、北村明子、スー・ウェンチー、デディー・ルーサン等の振付家、パパ・タラフマラ作品、ヌグロホ監督の映画「オペラジャワ」等出演多数。



© RA_Faizal

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

ヘル・プルワント Heru Purwanto

(歌唱・舞踊／映画：主人公（男） 役)

5歳より芸術の世界に身をおき、インドネシア芸術専門高等学校(SMKI Yogyakarta)、インドネシア国立芸術大学スラカルタで舞踊を研究。国外プロジェクトにも多く参加し、国内外の多くの振付家の作品に参加。国際フェスティバルやコンペティションの受賞歴多数。また、俳優としても広く知られ、スリウェダリのワヤン・オラン劇（舞踊劇）に出演している。

**ドロテア・クイン Dorothea Quin**

(歌唱・舞踊／映画：主人公（女）の母親 役)

幼少期より舞踊をはじめ、インドネシア国立芸術大学スラカルタにて研鑽を積み、サルドノ・W・クモ、レトノ・マルティ、エコ・スプリヤントの他、ガリン・ヌグロホなどより指導を受ける。レヘイン・エイブラハムズなど国際的なアーティストたちの作品にも多く参加しており、現在は自身が立ち上げたグループを率いてジャワ舞踊の振り付けなどスラカルタのスタジオにて活動している。

**グナワン・マルヤント Gunawan Maryanto**

(詩朗読・マントラ／舞台・映画俳優・吟遊詩人)

1976年生まれ。ジョグジャカルタ出身。演出家、俳優、作家。1994年からジョグジャカルタを拠点とする劇団テートル・ガラシに参加、俳優として主要作品に出演するほか、劇作も手がける。小説・詩集などの執筆作品では受賞歴多数。2010年よりインドネシア・ドラマティックリーディング・フェスティバルを主催。2017年、ヨセップ・アンギ・ノエン監督“Solo, Solitude”で主演。同作品で、インドネシア映画の父といわれるウスマル・イスマイル監督の賞、Usmar Ismail Award 2017で最優秀男優賞を受賞。



© Erwin Octavianto

テグー・プルマナ & アクバル・ネンディ Teguh Permana & Akbar Nendi

(弦楽器タラワンサ&カチャピ)

インドネシアジャワ島西部の民族、スダ人のデュオ。インドネシアの宗教的儀式や伝統の流れを組む音楽をコンセプトに発信。メロディーを奏でるタラワンサ、連なるジュントレン、2つの弦楽器によるアンサンブルが瞑想空間を形成し、導いていく。テグー・プルマナは、エレクトロ・エクスペリメンタルミュージックシーンで注目を集めるタラワンサ・デュオ「Tarawangasawelas」(タラワンサウエラス)のメンバーとしても活躍。アクバル・ネンディはジュントレン伝統奏者の新星として幅広く活動中。



© vrptms

ハイディ・ビン・スラムツ & アンドリ Haidi Bing Slamet & Andori

(太鼓ほか)

ハイディ・スラムツは、15歳より伝統芸術の舞台に立ち、州、国、国外へとその活動の場を広げる。サロン・ド・ツーリズム パリ (2010年) 出演、インドネシア・ダンス・コンペティション (ジャカルタ 2009年、2013年) 優勝など国際的にも活躍。地域の教育普及事業にも従事する傍ら、自作のバイオリン制作にも取り組み、国内外のアーティストに提供するなど音楽活動の幅は多岐に渡る。

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ 監督、音楽・音響デザイン、ボーカル プロフィール

監督：ガリン・ヌグロホ Garin Nugroho

1961年、インドネシア、ジョグジャカルタ生まれ。90年代インドネシア映画新世代のパイオニアとしてその名が知られる。監督作はカンヌ、ヴェネチア、ベルリンをはじめとする数多くの映画祭で上映され、多数の映画賞に輝いた。映画評論家、ドキュメンタリー監督として映画業界に入りインドネシアの社会問題、文化、政治をテーマに選んできた。映画以外にも演劇や美術インスタレーションも手がけるほか、2005年にはジョグジャ NETPAC アジアン映画祭を創設した。最新作『Memories of My Body』は2018年ヴェネチア映画祭でプレミア上映された。



© 佐藤基

音楽・音響デザイン：森永泰弘 Yasuhiro Morinaga

東京藝術大学大学院を経て渡仏。帰国後は芸術・音楽人類学的な視座から世界各地をフィールドワークし、楽器や歌の初源、儀礼や祭祀のサウンドスケープ、都市や集落の環境音をフィールドレコーディングして音源や作品を発表している。また、映画・舞台芸術・展示作品等のサウンドデザインや音楽ディレクションを中心に、企業やアーティストとコラボレーションを行うconcrete を設立し、国内外で活動している。これまで世界三大映画祭（カンヌ国際映画祭、ヴェネチア国際映画祭、ベルリン国際映画祭）で自身が関わった作品等が発表されている。

<http://www.the-concrete.org>



© Takashi Arai

舞台出演：コムアイ KOM_I

アーティスト。1992年生まれ、神奈川県育ち。ホームパーティで勧誘を受け歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。その土地や人々と呼応して創り上げるライブパフォーマンスは必見。好きな音楽は民族音楽とテクノ。好きな食べ物は南インド料理と果物味のガム。音楽活動の他にも、モデルや役者など様々なジャンルで活躍。2019年4月3日、屋久島とのコラボレーションをもとに制作した新EP「YAKUSHIMA TREASURE」をリリース。<http://www.wed-camp.com>



以上

■ インドネシア フィールドレコーディング レポート



レコーディング中の森永泰弘



結婚前夜のセレモニーで舞踊「Pakarena」を教わるコムアイ

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

森永曰く「ガリン・ヌグロホとは長年の友人関係であり、僕が東南アジアの調査に行く際の教示者でもある。彼が長年耕したフィールドの地に僕は幾度も足を運び、現地の音楽家やアーティストとの交流を支えてもらった」。本プロジェクトにあたり、森永泰弘が10年に渡ってインドネシアで築き上げたネットワークを駆使し、多方面にリサーチ。「群島国家の日本とインドネシアの異文化の繋がりを〈今〉の視点から問い直すアプローチを」との思いから、ジャワ島西部に位置するジャカルタ・バンドゥンから、ジャワ島中部のジョグジャカルタ、そして東ジャワの端に位置しバリの文化とも深く関わりのあるパニウワング、およびスラウェシ島へと足を運びました。

ジャカルタから南下、バンドゥンからは「Tarawangsa Welas」名のデュオで台頭を表しつつある若手演奏家のテグー・ブルマナの導きで、世代を超えた現地ミュージシャンとセッションを。続くジョグジャカルタでは、ガジャマダ大学のハルヨノ教授にジャワ島の神秘主義について教示を受け、隣町のスラカルタを訪問、ヌグロホ監督選出の『サタンジャワ』出演俳優・舞踊家とも面談を重ねました。コムアイが合流したスラウェシ島においては、コーディネーターとともに南スラウェシのディープナリサーチ旅を敢行。マッカサルより南方の Limbung では、ゲンドラン（両面太鼓）奏者として名高いダヤン・ミレを訪問、氏の厚意で、親族の結婚式前夜のセレモニー「Korongtigi」に参列。インド舞踊や能楽にも明るいコムアイは、セレモニーで「Pakarena」と呼ばれる踊りを踊る少女たちから扇の振付けを教わる場面も。また、ブギス族社会における宗教司祭 Bissu による儀式「Ma'bissu」も特別に許可を得てレコーディングし、食事を囲んで談話。このほか、約4万年前のものと思われる壁画と手形が発見された「リアン・リアン先史公園」の洞窟内でもレコーディングを実施しました。最終地、東ジャワのパニウワングでは、音楽家としてのみならず、教育者、指導者としても尊敬を集めるハイディ・ビン・スラムツの導きで、オシン族のコミュニティを重点リサーチ。オシン族から2名の演奏家（ハイディ・ビン・スラムツ、アンドリ）の初来日が決定しました。

■コムアイ（舞台出演）出演に寄せて

1万7千もの島々が、星屑のように散らばるインドネシア。一つの島を覗いてみても、たくさんの誇りを持った部族が暮らしているのがわかります。わたしが訪れたスラウェシ島には、死を祝うトラジャ族、黒装束のカジャン族、商いの得意なブギス族、といった具合で、この21世紀でも、それぞれに魅惑的な生活様式、儀礼、音楽、舞踊、装束を持ち、テレビ番組の「世界ふしぎ発見！」だったら、インドネシアで一年は持つとおもいます。そして、今回の短い旅では興味のありそうなドアがたくさん見えてきて、それを開けることは全く追いつかず、宇宙に放り出されたような気持ちになりました。本の目次が見えてきて、わくわくしたところで帰ってきたような。土ぼこりの立つ田舎の村で異邦人として存在し、旅芸人として踊り、奏で、遊び、全身でその土地のリズムを身体に吸収してきました。もう忘れてしまったけれど、このインドネシアという、蒸し暑い宇宙を一つにまとめられるガリン・ヌグロホ監督の作品はどれも素晴らしく、その中でもわたしのお気に入りとなった『サタンジャワ』、観客全員を宇宙船に乗せ、インドネシアの旅にお連れできるように、船長の森永さんと計画を練っていきたいとおもいます。

■公演情報

事業名称：『サタンジャワ』サイレント映画＋立体音響コンサート

主催：独立行政法人国際交流基金アジアセンター

共催：公益財団法人ユニジャパン

後援：駐日インドネシア大使館

会場：有楽町朝日ホール

公演日時：2019年7月2日（火）14:00開演、19:00開演（2回公演）

上映作品：『サタンジャワ』SETAN JAWA／2016年／70分／モノクロ／サイレント

監督：ガリン・ヌグロホ

音楽・音響デザイン：森永泰弘

舞台出演：コムアイ（水曜日のカンパネラ）、日本・インドネシア特別編成音楽アンサンブルほか

音楽・音響製作：concrete

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



制作 : (株)オカムラ&カンパニー

映画『サタンジャワ』

映画製作 : Garin Nugroho Workshop, Turning World

共同製作 : AsiaTOPA - Arts Center Melbourne, Melbourne Symphony Orchestra,
Esplanade Theatres on the Bay, Singapore



■「響きあうアジア 2019」について



「響きあうアジア 2019」は、設立 5 年を迎える国際交流基金アジアセンターが、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典で、主に 2019 年 6 月から 7 月にかけて開催する。国を超え共に創り上げた舞台芸術や映画から、東南アジア選手による混成サッカーチーム「ASIAN ELEVEN」と日本チームとの国際親善試合、“日本語パートナーズ”のシンポジウムまで、お互いの文化が刺激しあって生まれたイベントで構成される。国際交流基金アジアセンターがこれまで 5 年にわたり行ってきた相互交流の成果を振り返るとともに、日本と東南アジアとの関係をさらに深めるための起点となることが期待される。なお、「響きあうアジア 2019」は、同年に東南アジアでも展開予定。

公式サイト : <https://asia2019.jfac.jp>

関連企画 【『サタンジャワ』サイレント映画 + 立体音響コンサート】イベント】

映画上映&トークショー「インドネシア & タイ 映画におけるフォークロアとファンタジー」

日時 : 2019 年 6 月 21 日 (金) 16 時 30 分 ~ 21 時 (開場 16 時)

場所 : アテネ・フランセ文化センター (入場無料/予約不要)

内容 : 16:30 ~ 『真昼の不思議な物体』 (監督 : アピチャップン・ウィーラセタクン / タイ / 2000 年 / 83 分)

18:30 ~ 『天使への手紙』 (監督 : ガリン・ヌグロホ / インドネシア / 1993 年 / 118 分)

20:30 ~ トークショー

トークショーゲスト : 森永泰弘 (『サタンジャワ』サイレント映画 + 立体音響コンサート) 音楽・音響デザイン)

金子遊 (映像作家、批評家)

主催 : 国際交流基金アジアセンター

Web サイト : <https://jfac.jp/culture/events/e-asia2019-setan-jawa-pre-event>

関連企画 響きあうアジア 2019 東南アジア映画の巨匠たち

7 月 3 日 (水) シンポジウム (東京芸術劇場ギャラリー 1)

7 月 4 日 (木) ~ 10 日 (水) 映画上映 (有楽町スバル座)

『サタンジャワ』のガリン・ヌグロホ監督をはじめ、東南アジア映画界を牽引し、

世界的に活躍する巨匠が一同に会する貴重な特集上映 & シンポジウムを実施。

上映作品、スケジュール、チケット情報等詳細は 2019 年 5 月 29 日に「響きあうアジア 2019」公式サイトにて発表。

<本特集上映取材に関するお問合せ先>

紙・電波・楽舎 (山崎) Tel : 03-5457-2238 Mobile : 070-1274-7570 Mail : yamazaki@rakusha.co.jp

Web・モボ・モガ (岩館) Tel : 03-6910-2007 Mobile : 090-2486-2483 Mail : sck-iwadate@mobo-moga.com



この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当 : 熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp